豊島区歯科医師会会員の皆様へ

平成３０年度
糖尿病医療連携講演会開催のお知らせ

下 記 の 通 り 糖 尿 病 医 療 連 携 講 演 会 を 開 催 い た し ま す

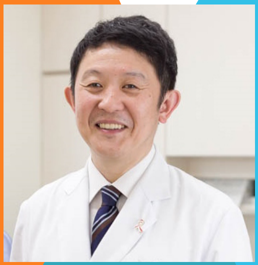
講師：野村　武史先生（東京歯科大学オーラルメディシン・口腔外科学講座教授）

日時：平成３０年１１月２７日火曜日
１９時半～２１時

場所：（公社）東京都豊島区歯科医師会会館３階ホール　　**持ち物：印鑑、研修カード**

『糖尿病患者の口腔管理について』

糖尿病と歯周病の相互関係は古くから注目され、periodontal medicineの重要なテーマの一つである。最近では、糖尿病が一方的に歯周組織の状態を悪化させるだけでなく、重度糖尿病を放置することにより、嫌気性菌が産生する内毒素の影響でHbA1cが悪化する可能性が指摘された（エビデンスレベル3）。さらに糖尿病の患者において、歯周治療を行うことにより、HbA1cが有意に改善することが多数のメタ解析により実証された（エビデンスレベル1）。また重症歯周病を放置することにより、局所で活性化したマクロファージが脂肪細胞に浸潤し、アディポカインが産生されインスリン抵抗性となりメタボリックシンドロームを進行させるという新知見も話題となっている。
実際の臨床では、糖尿病の観血的歯科治療を行う場合、HbA1cが6.9%未満の患者は、6.9%以上の患者より治療結果は良好であったとする報告があり、HbA1c7.0%が歯科治療を行ううえで一応の基準値である考えられる。また一方で、コントロールされた糖尿病患者の観血的歯科治療に際し、抗菌薬の予防投与に関しては、従来のように過度に対応する必要はなく、一般健常者と同様でよいことが明らかとなった。抗菌薬の投与はAMR（薬剤耐性）の観点から過度の使用に対し見直しが迫られている。抗菌薬の使い方にも我々歯科医師は考え直す時期にきている。さらに最近では、血糖降下薬DPP4阻害薬による口腔粘膜疾患の発生も報告されており、糖尿病と歯周病の話題は尽きない。今回、この古くて新しい糖尿病と歯周病の関係について歯科治療の観点から解説する。



《野村武史先生ご略歴》
1995年3月　東京歯科大学卒業
2006年4月　東京歯科大学口腔外科学講座　講師
2009年7月　カナダ・ブリティッシュコロンビア大学
　歯学部Oral Biological and Medical Sciences
　に客室研究員として研究留学
2013年7月　東京歯科大学口腔外科学講座　准教授
2014年6月　東京歯科大学口腔がんセンター　准教授
2015年4月　東京歯科大学オーラルメディシン・口腔
　外科学講座　教授
現在に至る。

会費無料
事前申込は必要ありません
糖尿病地域連携に新規登録希望の医療機関、また現在すでに登録している医療機関も印鑑をご持参ください。
講演会後、会館内にて懇親会も予定しております。